≪風景　その5≫R4.07.26

朝，横断歩道に立っていると，写真のように子どもたちは私にプレゼントをしてくれます。花であったり，ガラスの破片であったり，虫であったり。ほんと，いろいろいただきます。

先日，1年生のＡさんが，私の手の平にあった花を見て

Ａさん「校長先生，わたし，なにもわたせなくて，ごめんなさい」
私　　「いいんですよ。わたせなくても。でも，どうして？」
Ａさん「家にね，きれいな花がさいていたけど，とるのがかわいそうで」
私　　「ならば，なおさらだいじょうぶ。その気持ちだけで，じゅうぶん。ありがとね」

こんな会話をさせてもらって，とても心が温かくなり，幸せを感じた１日のスタートとなりました。「わたせなくて，ごめんなさい」と自分を攻めてしまう健気さ。切ないくらいに優しい子なのです。

夏休み初日（まなざしというよりは，思いのままという話なので，よろしければ）

担任をしていた時もこんな感覚があったのですが，忙しさにかまけて子どものことを二の次にしているつもりはないのですが，結果としてそうなってしまい，子どもの心が離れてしまうことがあったように思います。

実は夏休み入る２週間ほど前から，少し気もそぞろな時期がありまして。子どもたちと一緒にいる時間も実際減ったのですが，何せ，子どもの声が，話が，上の空になってしまって・・・心に届いてこなくなってしまったのです。こうなるとですよ。子どもの良さにもちっとも気づけなくて，思わず心揺れる場面にもなかなか出会えないというか，気づけない自分になってしまうわけです。

正直，いまいち取り戻せないまま夏休みに突入してしまったわけですが，子どもたちには申し訳ないですが，早く夏休みが明けて，子どもたちの声に，心に触れ，子どもの良さを存分感じ取れる自分を取り戻したいなあと切に思う，お休み初日の私でありました（まあ，夏休みの充電も不可欠なので，休みがもう終わってしまったら実際困りますけどね(*^_^*)）